

日本天文学会 1991 年秋季年会記事

1991 年秋季年会は 10 月 15 日 (火)~18 日 (金) の 4 日間、水戸市民会館で A B 2 会場を併用して開催した。口頭発表による講演数は、A 会場: 147, B 会場: 143 の合計 290 であった。なお座長は次の方々をお願いした。

	A 会場	B 会場
15 日 午後	長谷川哲夫 長谷川哲夫	斉藤 衛 岡村 定矩
16 日 午前	鶴山 正見	石塚 俊久
午後	宮本 重徳 舞原 俊憲	稲垣 省五 富田 憲二
17 日 午前	海部 宣男	長瀬 文昭
午後	笹尾 哲夫 石黒 正人	竹内 峯 横沢 正芳
18 日 午前	平山 淳	田中 靖夫
午後	黒河 宏企 桜井 隆	向井 正 石田 憲一

ポスターによる発表は、Post-deadline papers 3 件を含めた 26 件で、17 日午後 3 時 30 分から約 30 分間ディスカッションの時間帯を設けた。この中で、今年 7 月 11 日の皆既日食および 8 月 30 日に打上げられた「ようこう」の X 線望遠鏡による太陽像のビデオが衆目を集めた。

◎記者会見

秋季年会初日の午前 10 時から、年会々場会議室 (101 号) で記者会見を行い、主に次の 4 点について解説をした。

司会・進行役として、理事長・庶務理事が出席した。

- (1) 「ぎんが」による X 線天文学 …………… 嶺重 慎
- (2) 「陽光 (SOLAR-A)」による太陽観測
…………… 内田 豊, 山口朝三
- (3) 「すばる (8 m 望遠鏡)」計画と赤外線カメラの開発
…………… 上野宗孝
- (4) 公開講演「大気圏から見た宇宙観測」…………… 田中靖郎

数日前に嶺重理事から記者会見内容についての解説があったためか、当日の出席報道機関は 1~2 社であった。

また会期中に、内地留学奨学金選考委員会、評議員会、理事会が行われ、その他に 16 の研究集会があったがその中では、中・高教諭を主体とした「天文教育セッション」が異色であった。

賛助会員のための展示コーナーには、(株) ニュートリノ、浜松ホトニクス (株)、(株) エイ・イー・エスの 3 社が参加した。

懇親会は、第 3 日目 (10 月 17 日 (木)) 午後 6 時~7 時 30 分に、三の丸ホテルで開催された。折悪しく大雨に遭遇し、急ぎょ三の丸ホテルから傘を借りるなどのことがあったが、参加者は 200 名を超える盛況であった。

会場も比較的広く、浜田茨城大学長を始め、茨城県庁、水戸市、常陽藝文センターから代表の方が来賓として出席され、短時間ながらスマートな懇親会であった。

◎公開講演会

年会初日の 10 月 15 日午後 5 時から、日本天文学会主催で公開講演会が開かれた。この催しは、水戸市教育委員会、茨城県教育委員会、常陽藝文センターの後援によるもので、会場も常陽藝文センターをお借りした。

講演会には、小学生から年配までの幅広い市民の方々 300 名が集まり、難しいテーマを解り易く説明された牧島先生の話は大変好評であった。

「大気圏外から見た宇宙観測」——パルサー、ブラックホール、クェーサー——東京大学理学部助教授 牧島一夫 いくつもの特異な天体の様子が判明するに依り、微妙な条件がうまく重なって出来た地球—我々の生命体—がいかに恵まれた中にいるかを思い、「天文関係者は、地球の環境を守る努力をしよう」と訴える牧島先生が印象的であった。

置開発を積極的に進め切り開いてゆくスタッフを求めます。

- 着任時期: 決定後なるべく早い時期
勤務地: 当面三鷹 (近い将来ハワイ勤務もあり得る)
応募資格: 大学院修士課程終了またはそれと同等以上
提出書類: (1) 略歴, (2) 研究歴 (これまでの研究内容の概要を含む), (3) 研究論文リスト及び主要論文の別刷, (4) 着任後希望する研究計画, (5) 本人について参考意見を述べるのできる人 2 名の氏名・連絡先。

公募締切: 平成 4 年 1 月 18 日 (土) 必着

お知らせ

国立天文台光学赤外線天文学研究系教官公募

公募人員: 助教授または助手 1 名
公募分野: 大型光学赤外線望遠鏡 (すばる) 計画に関連した開発・研究

光学赤外線天文学研究系では、すばる望遠鏡の建設が進みはじめ、すぐれた装置と観測システムの実現に向けて多様な開発研究を進めていこうとしています。天文学の広い視野と見通しに立ってすばる望遠鏡の装